

赤潮情報（1）

令和8年6月22日

各漁業協同組合長 殿

福岡県水産海洋技術センター
豊前海研究所長

6月19日に調査を行った結果、有害プランクトンの一種のシャットネラ属（*Chattonella* spp.）とカレニア属（カレニア ミキモトイ *Karenia mikimotoi* 等）の増殖が確認されました。今後さらに増殖した場合は魚介類のへい死を引き起こす恐れがありますので、注意が必要です。

【結果】

○シャットネラ属の1ccあたりの最大密度は13細胞でした。

- ・シャットネラ属は1ccあたりおよそ100細胞程度に増えると魚がへい死する恐れがあるプランクトンです。
- ・本種は海水1ccあたり500細胞以上になると、海水の変色が目視できますが、変色が確認される前の低密度の状態でも漁業被害が生じる恐れがあります。
- ・表層の変色がなくても中層～底層に移動して増殖している場合がありますので、表層海水の変色が見られない場合でも注意が必要です。
- ・変色域が見られた場合、その付近ではスカッパを閉めて航行するなど、活け間の魚の状態に注意してください。またへい死の恐れがありますので、状況によっては漁獲物の港内での蓄養は避け、早めの出荷を心がけてください。

○カレニア属（カレニア ミキモトイ等）の1ccあたりの最大密度は15細胞でした。

- ・カレニア ミキモトイは1ccあたり数千細胞に増えると魚がへい死する恐れがあるプランクトンです。現時点では被害を及ぼす密度ではないと考えられますが、今後の天候や海況によっては、増殖する恐れがあります。

<今後の対応>

○研究所では引き続き調査を実施しますので、今後の情報にご注意下さい。

※漁業被害、海面の着色などがみられましたら、

豊前海研究所(TEL：0979-82-2151 担当：小原・的場)までご連絡下さい。

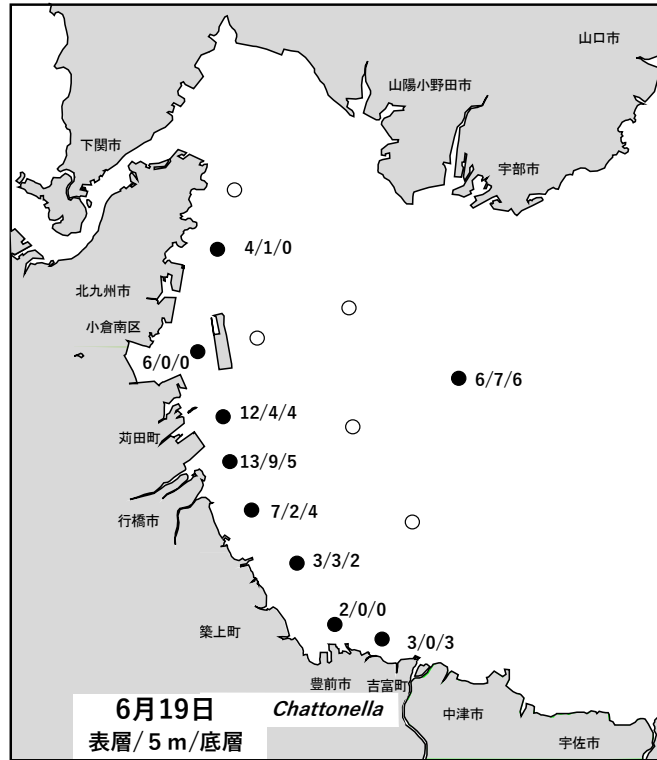


図1 シャットネラ属の細胞数（海水1ccあたり）

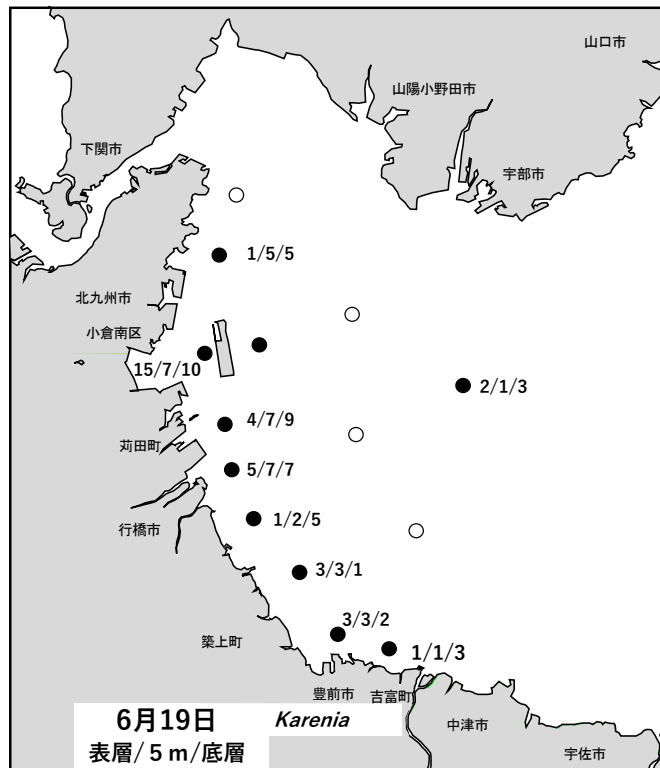


図2 カレニア属（カレニア ミキモトイ等の細胞数（海水1ccあたり））

※数字は0m/5m層/B-1m層の細胞数を示しています